

堀澄也

現ヤクルト社長兼球団オーナー。

日大学法学部卒業後、1960年ヤクルト本社に入社。

入社後は中央研究所所長などを歴任し、ジョアなどの新商品開発に携わる。

1996年に代表取締役社長就任。

1998年に当時の桑原会長、熊谷副社長らがプリンストン債を巡る金融派生商品取引の失敗で1000億以上の巨額の損失を出したヤクルト最大の危機に、余裕資金をつぎ込み何とか再生への道筋を付けた凄腕。

1997年からスワローズの取締役も兼務、2003年にチームの体質改善のためノムさんを監督に招聘した桑原潤に代わり球団オーナーに就任する。

故・松園元オーナー、故・桑原前オーナーと比べあまりマスコミに姿を現わさず、地味な印象。だがスワローズ伝統的なファミリー主義を維持し、MLBへ移籍を希望選手をスンナリに送り出したり、補強よりも若手の育成など働きやすいチーム作りは外部から評価されていた。

しかし2007年オフに総統を監督に招聘以降は日本ハムとの大型トレード容認したり、スーさんによる「ポストティングシステム（入札制度）によるMLB行きを認めない」とする方針変更を容認したり、2008年の総統によるオーナー報告では、「来シーズンに向けて足りない戦力は積極的に補強などで補い、スワローズが日本一になれるよう、高田監督をバックアップしたいと考えています」と「補強」を明言するなど、考え方に変化の兆しが見える。

これ、スーさんや総統たちの影響？